

科目	工芸	単位数	2	年次	1	学級	A~I 選択者	学科	普通科 国際教養科
----	----	-----	---	----	---	----	------------	----	--------------

学習の到達目標	ものを「見る」「つくる」「使う」「知る」学習を通して、生活をより心豊かにするために工夫し、楽しむ力を身につけます。
使用教科書 副教材等	「高等学校 工芸」 日本文教出版

学期	月	学習項目	学習内容の説明
前	4	オリエンテーション 1 工芸を学ぶ 2 暮らしと工芸	教科書や参考文献を用いて、工芸 で学ぶ内容やその意義を確認します。 1年次は様々な技法に触れられるよう、4種の素材を用いて作品を作ります。
	5	陶芸（コーヒーカップ）	家庭や出かけた先でも多くの器を意識して見ておいてください。 手廻し轆轤を使い（コーヒー）カップを1つを作り、把手を付けます。 作った器は、夏休みに学校の陶芸室で素焼きします。
	6	木工（スプーン）	木材でカレー専用のスプーンをつくります。
	7	金工（スプーン）	金属を加工してスプーンをつくることで金工の基礎を学びます。
	9	陶芸（絵付け・施釉）	夏休み中に素焼きしておいた器に、釉薬をかけます。
後	10	木工・金工（前期の続き）	木工 ・図面から型紙を作る ・木に輪郭を写す ・木を切る ・やする 金工 ・金属の板に模様を写す ・切る ・打ち出し ・磨いて仕上げる
	11	革工芸（小銭入れ）	革で小銭入れをつくります。
	12		全体の作品の中から何点かを次年度前期の展覧会に出品します。
	1		
	2		
3			

評価の観点及び評価の方法	工芸への関心・意欲・態度	1 工芸の果たす役割に関心を持ち、生活文化を尊重しようとする態度で取り組んでいるか。 2 意欲的・主体的に制作や鑑賞に取り組んでいるか。
	発想や構想の能力	1 感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取ることができるか。 2 目的や条件を把握し、工夫して発想を形に表すことができるか
	創造的な技能	1 構造や制作手順を理解し、計画的な制作ができるか。 2 用具の使用法や、材料の特質を理解し、創造的な表現に活用することができるか。
	鑑賞の能力	工芸作品のよさを味わい、作品に込められた心遣いや工夫を感じ取ったり、自分の意見を持つことができるか。
	評価方法	毎回の授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻などの有無や態度）20%と作品の完成度80%をあわせて評価します。ただし前期は作品より提出されたプリントを作品代わりに評価しますので、提出し忘れる事の無いようお願いします。 作品は課題ごとに決められた提出期限までに、完成させて提出することが最低条件となります。

担当教諭から	「物を作ることが好き」「自分で作ったものに囲まれて生活したい」「 が欲しいけど気に入ったデザインのものがないから自分で作りたい」「工芸って小中学校にはなかったけど、どんなことやるの?」・・・工芸選択者それぞれが、いろんな思いを持って授業を受けようとしていることでしょう。 授業で作ったものはすべて使えます。「欲しいと思って 考えて 作って 使って・・・」で、また新しいことを発想する。心も 頭も 手もすべて使います。 授業である限り、作るもの（材料）はどうしても限られてくるし、「 学期はみんなでこれを作りましょう」と指定せざるをえないのですが、その中で一人一人が世界にひとつしかない最高の作品を作ってください。
--------	--